

平成29年12月新見市議会定例会 12月1日(金)

日程第4(市長の行政報告について)

## 市長行政報告

本日、12月市議会定例会を招集いたしましたところ、皆様方にはご多用のところをご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

昨年の12月25日に市長に就任し、市政を担わせていただいております。この間、「責任の重さ」を感じながら、「市民の皆様のご期待に応えたい」という一心で、全力で市政運営に取り組んでまいりました。

また、市政運営の難しさを痛感する反面、市民の皆様からの多くの励ましのお言葉に勇気づけられるとともに、議員の皆様からのご支援や職員の努力に支えられ、私なりに新しい時代への歩みが始められたと感じており、厚くお礼申し上げる次第であります。

それでは、前回の市議会定例会以降についての報告をさせていただきます。

9月16日に、青果・花卉において、国内最大の取扱量と規模を誇る東京大田市場に行き、新見産ピオーネのPRを大々的に行ってまいりました。市場関係者からは、「新見産ピオーネは品質が良く人気が高い」とのお声をいただき、改めて自信を深めたところでもあります。

また、9月30日には、海外販路開拓のため、香港の百貨店「そごう」店頭でも、新見産ピオーネをPR・販売してまいりました。香港の方々にも「上品な甘さでたいへん美味しい」と好評で、現地での消費はもとより、アジアの玄関口としての香港を経由した販路が期待できると感じたところでもあります。

今後も、さらなる新見ブランドの確立と販路拡大により、生産者の農業所得の向上につなげてまいりたいと考えております。

次に、10月1日に、都内において今回で50回目となる東京新見会に出席し、本市の近況などを報告させていただきました。「健康で、住んで良かったと思えるまち」の実現に向けて施策を進めている中、出席された会員の方々から感じられた「ふるさと新見を応援したい」という気持ちを、大変心強く思ったところでもあります。中にはUターンを考えられている方もおられ、人口減少が喫緊の課題である本市にとって喜ばしい話題も聞くことができました。

10月8日には、千屋牛やピオーネなど、本市A級食材の市内外への積極的なPRと交流人口の増加を図ることを目的に「新見A級グルメフェア」を開催いたしました。好天にも恵まれ、過去最高の約8千人もの方々に県内外からお越しいただきました。これまでのイベント開催を通じ、市外からの来場者も増え、新見市の特産品が多くの

人に認知されてきたものと感じておりますので、今後は、さらに県外に向けたPRの方策も探っていきたいと考えております。

それでは、新見市第2次総合振興計画に掲げております基本目標ごとに、その主要な事業についてご報告させていただきます。

まず、「あたたかい福祉のまち」についてであります。10月に「クアオルト健康ウォーキングオープニングイベント」を開催し、定期的に行う「毎週ウォーキング」などを始めております。こうした取組への参加を通じて、多くの皆さまが運動習慣を身につけ、健康寿命の延伸につながるものと考えております。

共生社会の実現に向けた取組として、小地域ケア会議を市内25地域で実施しており、地域の課題解決に向け実践する活動が始まっております。他の地域でも設立に向けた準備が進んでおり、今後も、この組織を母体としながら、地域課題解決に向けた動きが広がることを期待しております。

また、敬老事業として、婦人会や振興会の主催により各地区で行われている敬老会に対し支援を行うとともに、長寿の方をお祝いいたしました。高齢者の外出機会の促進や地域のコミュニティの醸成を図るという意味でも意義深い取組であると考えております。

次に、「はばたく産業のまち」についてであります。9月に宮城県で開催された全国和牛能力共進会に続き、10月22日には、第72回岡山県畜産共進会が真庭市で開催され、本市から13頭が出品されました。3部門で首席に入り、2年連続の団体優勝を飾るなど、千屋牛の良さが証明された結果となりました。引き続き、その振興に力を入れてまいりたいと考えております。

また、本年の農産物の販売状況につきましては、夏の高温や秋の長雨などの異常気象にもかかわらず、本市の特産品でありますピオーネ・リンドウ・トマト・もも・水稲など生産者皆さんの努力が実り、平年並かそれ以上の作柄と聞いております。引き続き特産品産地の支援に努めてまいりたいと考えております。

本市を含むハローワーク高梁管内の求人倍率は、1.5から1.8で推移しており、雇用人材の確保は本市でも喫緊の課題となっております。このような状況の中、約40社の出展をいただき、11月18日に、11年振りとなる「わくわく産業ランド」を開催いたしました。これは、市内企業の紹介や企業間のマッチング、また、小中学生や高校生・大学生の将来的な市内就労につなげることを目的としたもので、子どもから高齢者まで多数の方が出展ブースや体験コーナーを訪れ、好評をいただきました。

次に「ゆたかな文化のまち」についてであります。

ICT活用教育は、今年度から、人型ロボット「ペッパー」を活用したプログラミン

グ教育を実施しており、12月15日にはプログラミングコンテストを行います。

「塩から子」育成事業は、小中学校区開催の事業として、上市小学校で実施されたところであり、来年の1月27日には、冬バージョンの開催を予定しております。

次に、中央図書館の来館者は、11月20日現在では136,090人を数え、開館以来、毎月約1万8千人の方に来館していただいております。

9月から開始した市街地循環バス「ら・くるっと」の乗車賃を無料とする制度を利用して図書館を訪れた小・中学生及び高校生は、2か月で340人もあり、図書館の利用促進につながっております。

また、9月には、全日本大学男子ソフトボール選手権大会、日本女子ソフトボールリーグ1部を誘致し、これまでの大会運営のノウハウなどを十分に活かし大会を成功へと導き、強力に「ソフトボールのまち新見市」をアピールできたと考えております。現在は、各種団体と連携し、オリンピックキャンプ地の誘致に向けて取り組んでいるところであります。

次に、「かいてきな環境のまち」についてであります。6月中旬から河川の出水期に入ったため中断しておりました井倉橋の架け替え工事を10月中旬に再開しております。今後は残る井倉側の橋台、河川内部の橋脚設置と順次進めてまいります。

また、水道の整備では、唐松簡易水道及び長屋簡易水道と上水道の接続工事を進めております。今後も効率的な経営と適正な維持管理に努めるとともに、安全で良質な水道水を提供してまいります。

そのほか、市内の地域団体等からの企画提案による市民協働推進事業につきましては、審査の結果、提案のありました全5事業が採択され、10月に団体と委託契約を締結しており、今年度末までの期間で事業を実施しております。

以上、市政運営の状況につきまして主なものをご報告いたしましたが、引き続き市政の推進にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。